續滕稾毛二編

三上

へ 13
3286
21

門へ13
號3286
卷21

昭和十六年一月十一日
尼野貴英氏
寄贈

宮嶋詣續膝栗毛二編 上卷

十返舍一九著

本清

東武

名所しるべの人四國七嶋といへる。九亀より下津井の間あしこゝもとも怪岩奇石ども多く。古松煙を含む海景日小輝きて。紅中の壯觀いはゆるべし。比叡山より清し。東都の繁榮保證帝京人八多のものゝ。同志の人乃ちもとよりせまるとも。かゝる便宜へあるまじきなど思惟して。いざや藝州

巖亀よまんぜんとて。仮船より打寄る。順風より帆
あげて。九亀の湊と出しよ。七福の使系。一重の
うちよりて。海より名画もおよぶべき状態なり。

所謂七福の使。須佐亀。和光亀。出石亀。淀姫より
主端ゞ。後年しまかまし。鬼の使者のくるよつきてくるべきなり。

櫛洛の使者沖なる亀かうまゞ

めゞりくんしきゞ七乃系毛

かゞてその日の未の刻だくうよ風風く漕ゞ
あゞりけんゞ下傳并とりよりくぞよまぐうく

九亀より里は女士が寄よる船のゞよ
ゞぐゞ。国に沈さうて出ゞうし。私ども。彼らゞもの
陸よかゞりけまを。不の高角。伺候しゞく。濃ゞ
ぎゞよせ。ゞ八ゞ。酒のまゞまゞやまゞ。かゞざゞの所け
ぎゞ八ゞ。ゞまゞせ。かゞん解ゞ。ゞいゞい。ゞまゞんかゞ
ゞゞまゞせ。ゞゞまゞまゞせ。ゞ所ゞ。ゞゞゞ。ゞ私ゞ
八ゞ。ホ二ゞ。ゞまゞ。ゞ船ゞ。ゞゞ。ゞゞ。ゞゞ。ゞゞ
ゞよゞぎゞぐゞ。ゞゞ。ゞゞ。ゞゞ。ゞゞ。ゞゞ。ゞゞ。ゞゞ。

朝
皿や
船子
ひく
希
雲
はし
屋
哥麿
柱
夕
墨山

船
巽や
大富丸

ぐるい子や。トりひつ。そそっしうろうさつけ。ぢりさそれあしごとをいごー。ぞまの
かるまてつうとそるやうとそるやぜんちろうのう合の人ごえ。ぞりハ
こあきるひふ林をつけさせ泡をのむもあるもちくもあり。きてさたらむ
あくひしうぐらうさまのもてるんまこバばあるんまうつけ。ぞひしくあごびぬうり
やくコリヤアたぶまら移へぞるわど風がさうつたろうのく
るつさ。私ぢさん何ぐ移まる人エイエイヤ。ちぬや黒鯛
ろうどぐかうもる。ぞくるんぐろうごうてきるひつ辺
ハせんぐエイもんびきとうちやアようんきてみコリヤアぞい
むぎうぐうぐ
猿蕎麦鯛しやアウ釈ぐうちう声。ぞうけるとかぐつるくぞ
小びるまの者ども志めるうるのくぞいくくぞコリヤるのくもりうい

私ぢさん。そうちうの捧とかーなの女人。殺でも移くく
ぞうう。ぞくぞ。ぞとるしいのそはうちうふ私がさんぐぐう
じや。小ハさそをかくそ。ぞヤこかるうこてア移へぞるさ江戸の
邪川の神でぞうちうが学ぐ私ぐ。ぞうくくこてうう。
さうぞうあうくもさ移へも。動うるんぐるめるぐ。
コリヤアふくぐぐと。私ぢぐまぐ。ぞうくくてるうちう。ぞさそ
のぞうへぞうんとあうこまぞ式動くぞその殺のさ屋ぐ
さ。笑合ぐ女連ぐうち。皆ひうちぐるそるのくてる。

私ばかりゝ　みやアばアきこえぬ。女中のうちでひとう
ゝの鮫よりもまんさりのがあるとまんくるうちゝこりゝ
大ぜいの金みやかくられ移くよりつくひとり寝たる
でもしくおのさあよこうまとてやりのさるがいひといふ
と。何が女のくもごろそれりといつく波中ゝこまく
やゝ大さうぎあでおつゝがだうとのくぺ今もんがめうつめ
をきうぞけてまんせくとぺあつたぎめゝぺ屋さくまむ。
コリヤ鮫のあゝぞりめ。ふそくやゝぺおれと推ゝとあ

ゝづゝまうゝ子のこうくぬきごゝ
移くとぺきうゝりあうく向眼ごゝぺその鮫ごゝそくく
と逃ゝくりおうそぺそれゝぶハ私がごるくぺナ下寿ゝ
ごやアあるめくゝソリヤまうくだごやぺノウおうくまゝ入宮
ごやありやせまゝ子ヤ十二おいゝゝぶ神でも仏でも移く
けまごぺその時ゝゝ蒲鉾ゝ屋をして居ゝかくぺいくく
イヤかうゝそぞ　あゝいりのごゝやぺ。ゝしくとあげさ三
ませ　ヨットちあぺコリヤ　鰻ごゝ。ト中ごゝの鮫とうゝのみ

ふくまてくけつうる。コリヤ妙ぶ。ほゝさんくちよつとそ
えさんく。ぱやくく　ト　よび出されて　ヲヤく。ほめく　ほうさ
のゝコリヤ　おりゝうく　ト　ふそのゝうちゝゝゝ

してゆくんだん。トゝろしきづくのうたことを
いづかくとうやくとうくのごとき
大きなる紙よのごとくなる。そんなのふ 歯が大きう
どざりゆくとうくん 医 ゆんそぐいはさるのくうり
いちめんよ。鰹 そうどもの歯のあとがあげとでや
あるぐい 小八 ホンニ いちく 膏 業紙 なるもめんどうぶ。
ぶうくうりきちひどくたるぐいひどやア 移へく。
陳 アリ ゆまでさうあるぐのう 代 そふさくつまる 陳
移へくとる紙いゆそんどやアりのぐうれ移へく 医 ゆう

たいうくんぐうちさるのくこぐいあくゆくんだ
ト クうやくものぐうさ紙のまんなるくうちの 小 ゆくうくうゆ
出るかとあるをあけて。彩よぐうくうとうする
斉 ゆゆ 多 移よるくう 医 ゆどくうう 移 ゆのはうさるう
煙 ゆ 多 ゆどもふうつけさゆくうよぶうそうぐふぬうさのう
ごとくゆくはくう 陳 ゆりくうくも移へゆんぐめよあうう
 稲 ひそげよゆかくう
かくう毒 魚 ぎよあうたうづう
打 ゆ 西北風 ゆ の 吹 出 ゆ ゆうとうく。 鰹 を 解 て 紙 ゆ

あがらく 佐前と佐中の境よりいさる。小ハ玉川 白
ハ佐米の名所なり。けあらうより佐後の白
石までとなり瀧といふなりとぞ。

あがなけもるの紀日和とて悠々と
雄ろ佐ろへ ろしまの瀧

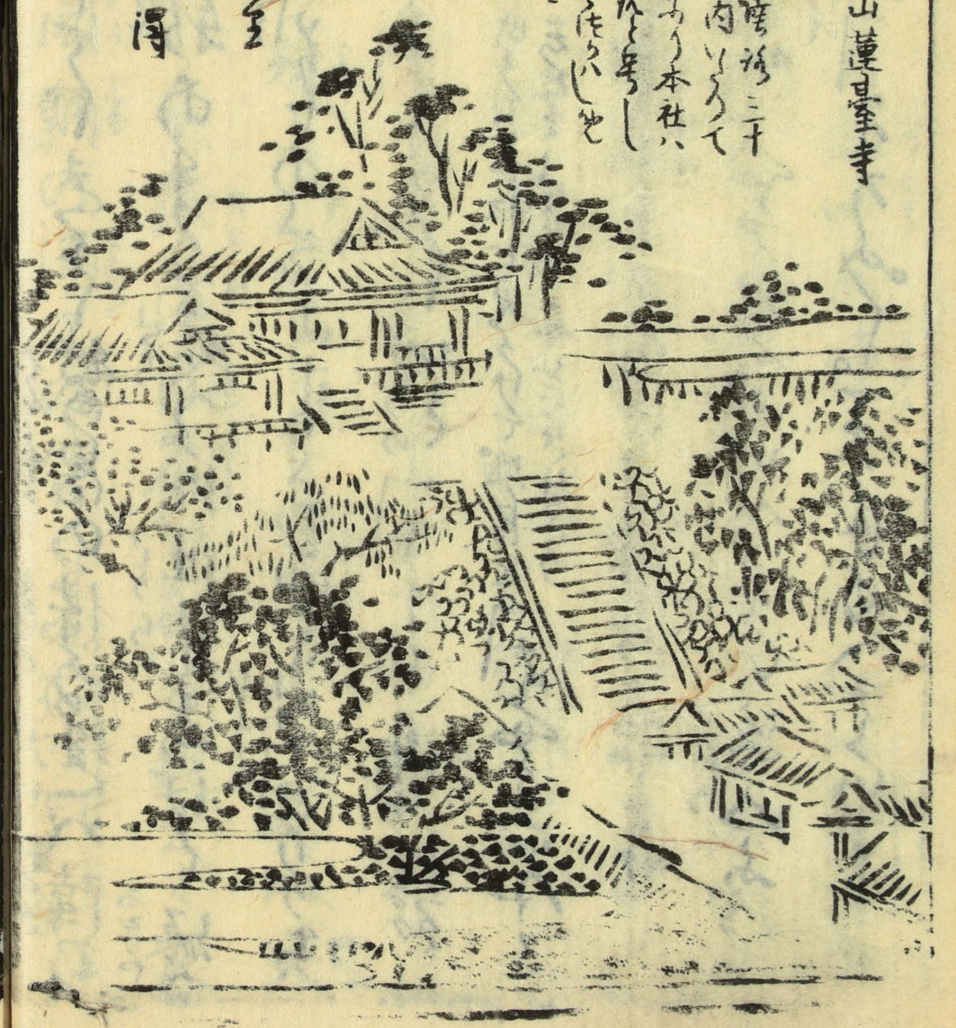
順風あがら殊よさらげしく吹出しく。和ハ天
うりもたらやく。氷溝白石を打さぞ。少とり
こゝ佐後の國境の湊よりいさりる。下津井九里余

はのろよさらぐまく。鶴昌の陸ろまこバ。陸ろ
方家居千軒あまり建つ。往来ちげく賑ろ
よんろ。ツリヤあぶよまくぞく。ろりうぢ
ろうぐョウソロウく
カラくくく 私をんろけて風呂をハ ろあうぐんく
ちるる小糸をこぎきろう
湯ぐもあぶ米ろうろ。ケニ。ぴら ちやまあ
アリヤア湯ぐやア 強へうぴつぴい 逆ハふぷ
さんどうぐ。ろろみく。アアあめへさいぷ

備前国瑜伽山蓮臺寺
自性院之畫

西の方まつ陸路三十
六町あり坊内いろいろ
結構の地あり本社八
陽仙大権現を号し
紙七枚の札を出し
めいくのもの

松原
紙の
鮮を
一得



「コウ湯」水のこうさんなるだいく陽舟の「サコぎく」
しやませ「小」きりのふろへぬいてゆふ「ト」ゆぶねをたつ
あるのうむくの夜「小」コリヤどこらたるのぐ「ゆぶねのちんどう」
とびのうるぐら
「ひきと戸」あるくきがらざりとたろーそ「ナガシテ」
「ヲいふ」ーやませ「小」「ヲット」よくこうかとんと
「ヲ湯」ぶかな湯ぐそ「ヲ湯」ぶあらうちどごぐーしーや「アラカイテ」
ようせまてる人デヤトけうのひぶり「ヲ酒」「ちゃ」「ヲ」いさのまーしや
ませ。餅こへーやませ。紙端いろこう茶のふ

ちゃまをせぬ。よろづやアく。ト時ふもとこざをせ。湯ふのせんどうをえらび

「おきるい」「イヤアこのでぬめ。こんだうろう淺おこせ

「るんのとぞや。どろめざことの酒の殘りんあん

るげめこのいものこのハせく。チニ山ゐいとう

めが「ナニ」「おいとう。こもろりてたゝどものふくる

と沢ぬう。おるテヤ。ハゝが酒ぐこうひもろてぐちどれ

ハおぶじやろ。擦の四こまつけるぞ。ト ふもの さそれを

ぬ重ぬまとおるひも「イヤアそ。湯ふのたたゝ

じもデヤ。うらうが殘もかけくちくさぬ。おろよん

ことおをるケ。打ころせく。ト 大おんさそれをつりあげうそ

「あるされのがらぶをこぎ 商船 「ヤイく。ぬ。ぬのがうめ

ぬぐ。ぎゝくとあげてぬく

かくせく。「ぬん」とうどもヤアイく。お母よく ト張

ぬがらもるゝまあげのびる。ホハそもの中 小八 「コレく。せんどうさん。

かゝゝこがとさ。ぬ。ぬんをとをえんてかゝうし。ぶ

ころのこあげるハいひがおいゝがたまゝ移。湯ぶねるくそ

風をひきそうざ。りんあそこつけくあぶくそん移く

「イヤあんるげよ大せいぬるケニ。ら又あこくあさゝ

うちころされるデヤ。ちくしんく。そんろう
もいふべごうさるのご。そうらぢうこまりやませ。
ひきけ。ドヤケニ。いつきよあとくるぐれつくぐやあろ
デヤ。ヱてどんごをとるハアクワサメ。そりや風をひく
へ。ヱてこうさちりひの外弱虫ざるんのきうこてこア
弱くやまつちゃんる。まこーやませアノでもど
ぐいんまよあとを道ちるケニ。ちんサアくやり
まちよくト。ゆびをもくこぎめどせとかう私。ハアコレハ
あんのけやこんるのげやら。私が赤まうんケニ。
よばくやませく。どごく。陽きこ八ゥ。夏ざく。トいを
陽次さんく。どごく。陽きこ八ゥ。夏ざく。トいを
ぎつれば。ハそう。ア。さむく。いあくまつい月て
かとみあへとびこ。
あつこトこぐとこらくきかのをきてあるうち。素合のひらぐ。
ひこうのおを女町そんぶろせんとくおりひくよ出もくふぐ。
陽次ゥ小八ものよちくこくして。叶漆商家いづまも夏蘭
小家よ打のう。ぐのくこあぐてこれば。
ふくく。世ヨ伝茶焼とのふ陶器。保命酒豊の表
七殖蓮るのど名拙るり。町屋をこうのれて演造

のかさよ裏町どをうとうく拾女屋のあるところを
出まいべ。女どもかどぐちよりのぞびこちて「女」あのさん
おくうるのさんせ。おあそびるさんせ。ト 侍ハをとくてひろぐる
「小八」コリヤ〳〵つまづきたくいろさたるみせく「女」侍ウ 侍
いひるさんせ。おつくろたんのふてどやあろ。ちいさ。きたろう
るのさんせく。ト 大ぜいとりてもりむこうよ 侍 ふくろをひきざりこむ 「女」さうきたよ
きさハ達がある。「小八」おくさが祝くぢくろうぢりあが
ろうの「女」サアおいでるさんせ。ト うちつれておくの中あるいく
とそれんばあそこに鼠のさてーき

あそ川ろうる「小八」ヂヤニラ〳〵 チヤ チヤニラ〳〵 げの子のうるてきよ。ま
三みそんのおと
くろめうきうきちよめきうめうきうきちよよくよく
風よぷくかいろ。おりきくさうろく。でんく
ろうでんのぐ。ろんきよ。ぷよ。ろんの。ぐ。ぷよ。ぷんてるんての
三ぐくうるぷんさいろ。きろ。ぷふりぐれのきろく
いときろてるぐぬく。「小八」ヂヤニヤ〳〵 ぢ〳〵きろうハ
祝ろかくおりろく。時よぐ。ぐれそどぐく。「女」さ
ねきろくるのさんせ。「小八」コウ女中。ぷちハ何屋とよ

まんだらやとりのケニ。是かゝるまゝ。
つのさんせト はちすのうづをおさけさうなりぐとゝいのめ
れて来の 呼をと コレハよりお出さゝやまゝ。此坊さま
尚不 盆堂寺の観音堂。建立さゝやまゝ。
若さまゝ。ぐめよりぐ。孝加どもも
ゝまゝデヤ アイ寺。進よつけとかゝ。どやうも
くゝ沢いろゝ来る。ゝゝ かゝだりじぐ
卯洞ぐぐやせう コレハ四太郎でぐどや

まゝ。同同ゝまゝよ。只今のお物ゝ。視尚二世安楽。
先祖代々の清精是安。極楽。仏果善提。
あぐぐくト まんのぐろ。女郎買
ゝ来く。四角よりもめつくん モシおぐろさま。
まゝまゝさんどるさんども出ゝやまゝて ホニ
ゝるさんぐどんなげる子がゝ。ぐどりまん
のんでものひくゝ。ゝ。コレ今ぐど。
茶漬さんと琴浪さんをおぐゝ。

トリのへ、けてやうとそのあぐつるとろのをとつれてくるぞ。おうぞくの
田舎ものなれどもふてうのあぐらいくろのきるものをーー。をよ
つくとさうりのはるうもりうもりーーりてるさる「コレく妻帯
をうのうらうらイのうるのくさけ家のおかぐ。ちんぐうとそく
の野や。ひどろよいそんるぐげよぶろそうづらーく
るんのるのでや。うらぶがいんとぶぐよまんうちまれ
とぷてんぐのうくるぞ。おぐんドのむぐろりちるる
ようのうらどもしてケニ。りふちうづき男じやの。
新ドやのとろうくすうるげう。もんくくと。コナ
けんーうんかがトうとつをおうとうくかうそのうくうくゆうと
かのかぐいコとうとうたうくのかうくうけうり

ぬくはいかにかはいかがのそびやうとうのうりざうれのあへ西国がこのお侍まく
うのうくうぐのううやうまれバ女ぐうのうくよのうくうのかトうをまされー
をきそそうそそうそ「ヒイ」おぐまちのりまーしうろ「コリやうく
ひやうよのやそうく
うらぶうどもみいいろうぬぐてのうぐぶうう女よづれと
いく。牙どもうんぐうよさんうろうどでいんぐ
ありうぐい。妻紀の形へ牙を買ふさ女うどもじや。
則入り晩へ牙ぐおひの女房。市妃も同家じやテキ。
むぐうげよぶんぐいふとんぐふちあげで。おぐう
おうへ。牙ともお尋ねく失れじや。ぐうぐう。

ぼう湯當ようぎきうないぞく。男エイあんぺてりとの
おごまんぐごぐごぐ〜ゆやまんぺてるぐのさまを
ひう〜〜ゆまま〜〜が。おあ元まあてさ〜ゆす
さらぺるあるさ〜ゆまして下さりませ。士イニヤ
ぞまようぃく。そんまきうけがぺきもどれんがぺてるぐの
どもか弟〜く〜ぬ〜おるあんぺちっづき男ゴゆの。
元意ぐゆのとぐぜどぬくんさんぺ。弟どもはのく
つけくぬぃまま。お遺あうたぺ。弟きっうぐぞ。

頃成拝女どもと又意ふる弟がぞうでるぃ今殘
とりつく求るあうどもよりつ〜ぺあんぐぃおうこもい
ぞぬうぺくようぞぃりめ、ぱ〜ぷうあゆ
つけくゆらんぞぃ。別當ぞくづまとりくぺら
あゆ弟どもうちはゆんぞうサァぱうぞく。
トりつこのかいのぞうじちょ。あうして出みるを男いうく
るぐあうちぶのぐさうぐのあうぐさまぐうぐとぐ
とおぐまうあぐぞ。ぞ〜〜いぐ〜〜ぐのうちでぐあんぐゆ
ぞくぐまうまぐ
ゆが弟ぐまるといゆ人ぐあるりめぐぺ。みぞりゆ人さうぐ殺

おつりんのようにぽ。あんぐるを退屈ごろう
うら、トそこのあいさつがれもうしをよ。おくりれこんうよ入。
女郎のさげんをとそこ。ぐさ。ぐさ。ぐさ。ぐさ。ぐさ。
女のあんまりようれこどこ、サノ。ちょっとこうちくんな。
さりるぐらいのあいくさか筆づる
せんぐろうちょア遠出りのぐ。那ーさ。ぐ。ちを
あるんくくこるとうもあくがこのようみうこうい
りのもぽれべあるりのぐ。ぽ助いいるさんせ。
おすんさんのくちの紙きこぽんしこのさんしさん
コリトアあんまり塩辛いりのが好ごうらいこうぐ

らべまぐ出るさのぐ。るあぐゆういひなさんせ。
ちろづきの女郎さんぐさよこうひはりれるさん
しさりのぐやあろう。おすんさん肌えひこうる
ありるさんセトちびをこくぽれこうひこそおりの
ねこのたこうづくこまくりのぐか。
こうこうこうこう。兼錦さまよく。ちくすとこぐこうーやまぜ
トこうびいぐこくつれてあくく。髪風
ひこえをぐこくのこうこうはきこ八。ぐんぐほるこんおんー
アこれぐの。長いあくこんこ。今どこくうりおんこ
小。おいこうが女こうあっ門倦こうら吸びよまこいろこぐ

おあくの女と おいらが如ふ、ゐんとうの兄弟
ごとりのことぶ 「屋敷とそうく 仙くめること
おりりっぞそれじゃア おまえが 婦 聟 さまごろ
〳〵ト 此間 ごうでごうろうそでとあて。 「お あさんうら
ちりちりするさがうきうう
りふうるるいとが出来 おりまするさんな 「ゐんご
ごうしさく 「うらのてらさんがごうのへてり
死るさんしと今いのくもてこうしるとう
嫁 「てらとゐんご 「うらの男衆じゃうる

「ゐんとうらぷうんご
ひとうのてらじゃケニ。かるーうてくぷうん
のへてお出るさんしさあらのお出るさんしさ
子もうらが妹じゃケニかるーゐてぐうてトよ
おさんでるいてじゃうんるみ 「ゐ いりりゃ ゆうとものぶ。
おさんが行くとあるうるえんく。ア 寝くあて寝ね
ぐうよ 「ゐんよ 四月。でらさんが来るさん
しさいひるさんしらぷうらうんるケイ

爽
あや
ぶりろ
まを
盃
紫丹竜
一雙

青の絵
初音樓
一炷

びやうにん
病人じやケニ。おもくなつて。
なほぬよへはせんといひなさんしーこぐ。そのとき。
おつとりとるをぐ。式こぐ。おさんしーこを。今
用のさたよこるやうじやいる。そのざうふく
ぬこんるばよるのとのあふぶ。ぶつそうづくて。
ひとうつふくてらさんへあさりちつこぐ。
おろよんこーこさるいる。そのざうふくぬく
かーさるへすーらちのどこぐ。このひのどのの
ぬきうしやうじやトこんるぬ。ぬんぬるつちぶ
ぬて。ぬんぬ。ぬんぬ。ぬんぬ。ぬんぬ。ぬんぬ。
といふこんる。ぬんぬ。ぬんぬ。ぬんぬ。ぬんぬ。ぬんぬ。
ぬんぬ

いきるさんとて。私で死るさんしさじやへ。
ぞうさんしこと。ほうほう寺さんと名の
つのさお人よ。歩るりのハるいろんかぐらぐ
在所よもほうほう。えさんといへ人がありおんさ
が。痛を病ぐくちの移をぐうまぐよらぐくと
寝まてじやケニ。おどれんさんがりよぐちづき
男さうんすくたしつ。その移ほうえ
さへバりてうるぐ。言すぐら遠ふと首ほうて

死るさんしさうんぐれが悲うて
安てゆまぐいめくきしの名んぐるの口ういをぬう
きやアがるトきぐるぐるぐる

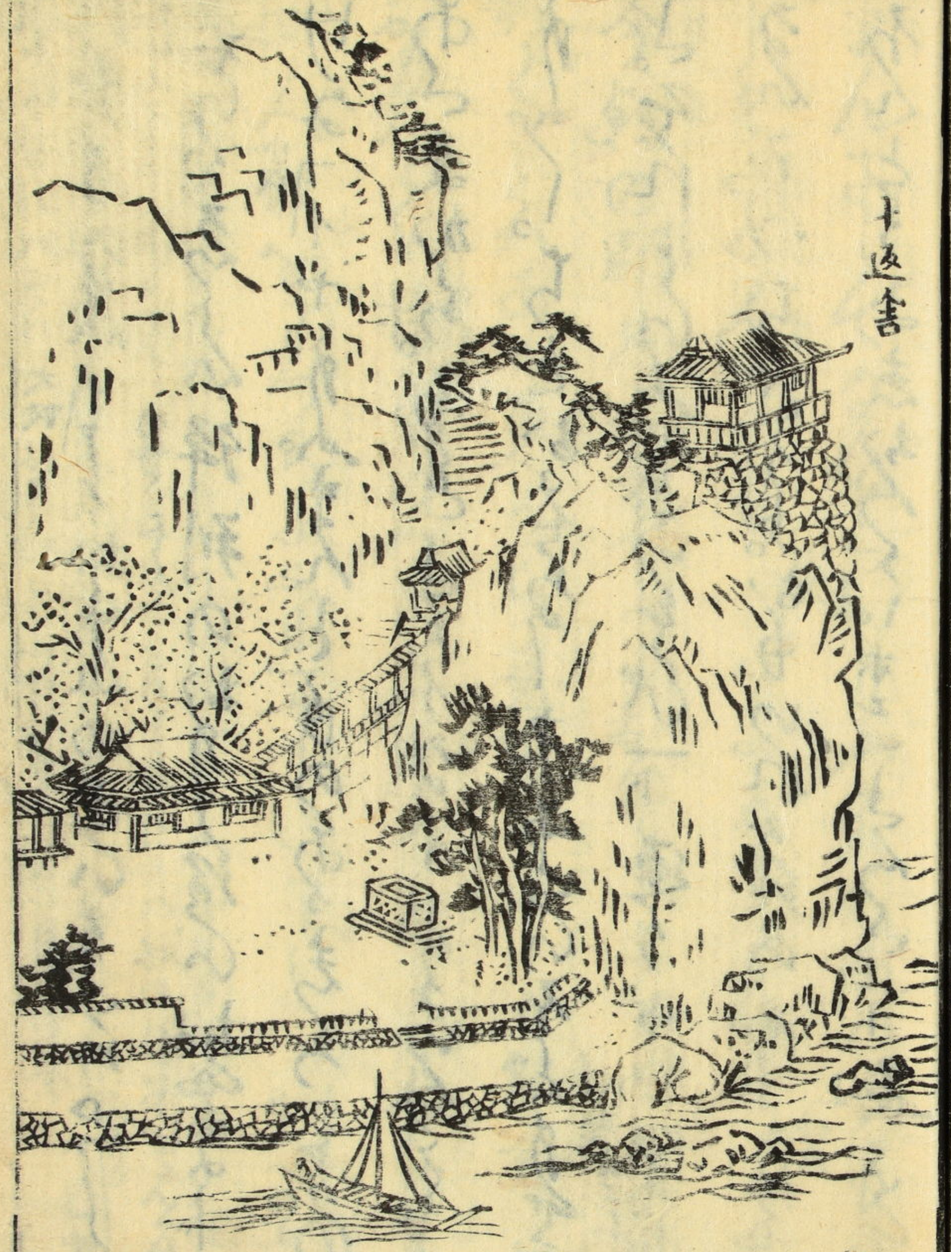
ちゃる行くぞと呼ばいしゃ「陸」いめへまし。
ゆんぬるべつゥト「三ぬぐれかそぐよ」「お」おかさんがど。
そんるのどよるてたてゥしとゥ道ゥるさんをとぢらし
ひゥらきまんたゥこ。怒しんく「三」ゥのさんセトゥたい
ゥりゥるともいろゥくゥるごめるゥちゃるさんのあいるさゥもさゥるゥ。
さまゥでゥあゥまゥりゥるびるるよぞばるゥるさんハ　ぶのうちゃんがこの
ゥるゥよてかゥるしのたゥあゥるさゥるゥどんでどめるをゥるゥよ
きげんとるゥるせばゥるゥるもゥもゥらゥうゥるゥよゥるゥよゥがゥしたゥるゥも
ゥんんゥるゥるゥる

[illegible]ぐ。[illegible]ぐ移ぐ。ザアいとゑうト（ちりひきうて いかさまちきて）
[illegible]（[illegible]）「[illegible]」だんくらうこせる 男（めん）あつさ「[illegible]」（小八）。
どんでもおいらん。女あやァ 縁（えん）がるのひとえこるぽちつと
の形ぐ。本（ほん）平（ひら）そげぶそるまちつ。残（ざん）移（うつ）んる。
そのうりコレ人（ひと）なせ人へト（ちりとうふ人形こきの 俗「ヲヤ」）
どくしこめぐ「少」ふんだりめがぱ人形（ひんぎう）とかくく
きやァかいく。青（あを）よ蒲団（ふとん）のあぐ（ぐ）へ（ぐ）[illegible]
ちくさをあんまりいあくまんん（ぐ）ぽうぐけの結貨（ちうん）

よさくけくまさハ「俗」かくくそうよ。どんぐるり
とる男（おとこ）ぐ ト（はなすのうちぐ）ふれバ生合（いきあい）ぐ食（くら）ふ[illegible]
あるまぐうもぐちうくそちちぐ乳（ちち）ぐ乳（ちち）ハ出（で）るのうちと
とそのくくぐ又（また）ちくくよ男（おとこ）あくかるまくまくまぐらく私出（わたしで）ん
あのもちうち義（ぎ）ハのめぐくとあけよりる茶合（ちやあい）ぐ食（くら）ふ[illegible]
ぐくくも山（やま）のたくすのうちまだ大坂（おさか）の人 「モニナ」おるどの
おんん。ダアハるくんりくくるの「少」おくぐぶこ
それとまうくく居る「大阪」おまんぐこのりくどや
まんだうやへ早もいくこるる。そどやさうん
うきんくまうくそのくるうんる「小八」「ゆりや」面白（めんぐ）

備後阿伏兎
海潮山風景

延喜人ハ
[illegible]
[illegible]
[illegible]年
[illegible]
[illegible]
[illegible]の徒



[illegible]もるん「大坂」アノおまんのあいてんそこへ
若いぶ。ろくん「ひまくぐん」浮列のおりをいおまんじゃ
げみ「少代」イヤすぶまんとものあるまろそこのさ。
あさまから。ろをところろうんとろいろくぶイヤ
すみくぶちとおたろうすやあていわどりてや
よそれとろんもあそび一下通りあい。如何ろ
るんろちぐうぶ。おもいれ[illegible]のめくやまと
ろんとうよおろく。ホンニとろと一下[illegible]よさぐも。

よんぐろぐるをとおのりのあいあろちゆさの
しそぐとろくあと「大坂」おさよおぐやとんる「少代」そそで
今紅の別をよろへぐ[illegible]おろく。ろてもまたおろよ
ろるとろあるめくろ。芸をとろてが紀念ぐと
おりろく。持くいろくまろと。コレろんるせ。
四人敢をとろちよろ耳「十時くるの」もふべの与
ふで琴琴ろをふろうろうれ。男どもふとぶせろく小舞よ打こ
ひろふとろうるろくとろうとぐてこるとの花女八紅の浮後をんるて
あをと幸してろとむぐ又見のぐこぐらむろひしくく「文ぶ」ヒヤア
るるとろれがそれらのおりしろとろや。ろるとろと面まろそて

すんどやゆうこそーそんるゑ妻めぐこんる
へんくるん（京）ヤアゆくべのぐ。コレ伊兵さん。おあく
のあいかこと。おいくがおろろりのが。むろのへ（京）
（大阪）ハ（京）それろるゆ。ヨイくトはさきれば。かの小ぐこと
ちんちろくそんくよるーゆくしてそうるこ。するく（湯あがりの意）ちゃ化粧
おかのあどんちろうのおろーゆうまや。ゑどんをるこえこせーハるとく
ろうくつ（モシイ）風があろよんケニぐくてりハは遅留
ぐやあろ。おむろひよぐりおろこるん。サアはん
のろくまくくまるさんせ（京）イとくりふ伊兵ん

ぐはめんぐ（大阪）（モシ）いそあげるされ。おまんいいまの
おまるーのろけもあり（浪）ホンニ琴（と）浪さんとあろ。
あへ。この男よいひりの紙ゆろくこの（京）ろんでや。
うちあのさんよあげさりのいろんるる（浪）かくこ
りんぐの。小ハ今の紙えんせまま（京）コレ。ろんぐと
いゴコリヤりふぐそんるるいくこすさ（大阪）ハテいふく
ぐんるいぐやろんうるぐ。ーいろこ（小ハ）コレ
それをいってたゆすのろ。おぐむく（京）ろんぐ。

いってきろしてくれるなさんせ　「火」イヤく　ぜんまい
めへぞ。ゆるさんなぞへ。何もかも　ゆめ幻で　兵庫
いと　三味線のこりゃ　ト　目まぜで　ちゃうせ　ちがの人形をうしろ
琴　浪ちゃと　ちゃうけらく　「モシイ。そのぜんぜのぐりゃ。こちらおくるんせ
ト　とびつりて　大阪　「そのうなく。おまん　今　教　けおくへ　江戸
ぢゃとおりゃんで　おりて　おりゃんで　こまて。おげるさろさ
ぢゃるんろいな　「ト」　おおぢゃいひるさんとるぞこの
でそのぐりゃ　ぐりゃ　ケこ。ぐりゃ

屋うり。清蘭のあいぢよ　おいさりのあのさ
ねそんていふるさんしーさのぢゃ。ろぢい
うらうのぢゃのぐりゃ　ぐりゃ　ぐりゃ　おろまんこのん
ケこ。ぐりゃ　おりゃ　ぐりゃ　おろまんこのん　ト　りゃんと
ぢゃるよるの　大阪　私のせんどう　おりゃ　そのこ
ふまりゃ　ぐりゃ　このあくつるこーしる　ぐりゃ　そのあのさろし！
まんをさんれば　ぐりゃ　せさるとせんどうのぐりゃひみて　ぐりゃ　ぐりゃ
式人形　西琴　ぐりゃ　ぐりゃ　ぐりゃ　ぐりゃ　ぐりゃ　ぐりゃ　ぐりゃ
さるよりてそのあのあんとき人形　ぐりゃ　ぐりゃ　ぐりゃ　ぐりゃ
とまくぐりゃ　ぐりゃ　ぐりゃ　ぐりゃ　ぐりゃ　ぐりゃ　ぐりゃ　ぐりゃ
いひ　合せ　人形をぐりゃ　ぐりゃ　ぐりゃ　ぐりゃ　ぐりゃ　ぐりゃ
ぐりゃひまるまりとぐりゃ　ぐりゃ　ぐりゃ　ぐりゃ　ぐりゃ　ぐりゃ　大阪　「ぐりゃ　スリヤ。ぐりゃ

てどん〳〵とのどやなすん。破傷風なとさんさと
どや。ゆきへてどん〳〵とのどやなゆこりやゆ〳〵
ふる〳〵「うらてくらさんの死なさん〳〵さと
うちへづるのどやとんみなさんもさらく
どひしてうちの小舟のりうれが男ろをもしておきろ
かるへあくとれは此多々のあやはりしてあくとんへさう
をうづくて

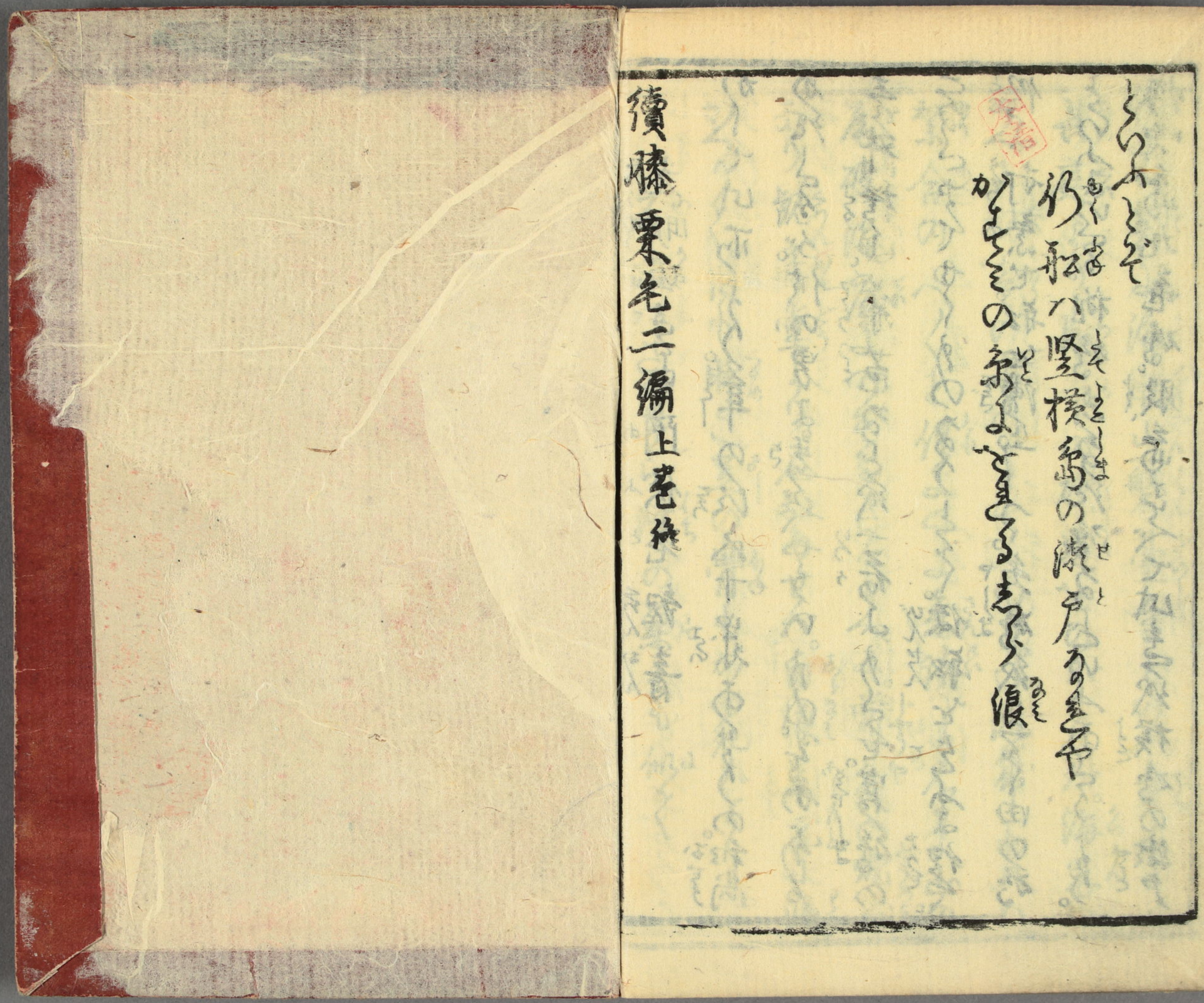
塗立の胡粉おさとの人形わ

そろ〳〵さげてきさと八の

此狐舟は私叶さるく小八の親をんてぞろと
笑ひを催しる。ゆこそ風なをう汲もすとそ
私ひども帆を引あげ揃とう走ーパ涙を出る
とそ。鍋の明神のかさとぞるく遠拝して
青葉変しるよる後浜沖
居るのぐらい洋むれのめぐるよ
かるく私そんかうよ沖なるよんしり出示訳
青葉変傷をうちぞ阿伏鬼といのところる

いる。是より海潮山繁墓寺といふ寺あり。
其庭より鄙下の磯道とのびきべ。海岸の
うへより観音の堂のとてあり。ふるき寺ハハ
繁合のへくと修よてよ糸清しんるよ。山の
尾磯海底よのぞきしるうへよ。常夜の燈籠
あり。観音堂より。人おろせば。白浪足元より涌
かりとく。同も眺さ。足の骨もかゆ出だろうよ。
石頃ハさるのぐら峰の巣ゆも似く

光明のさとと阿伏兎観音
かくて山ふるより。年の比六十余あまりの。和尚
めたしるが。彼の男より是へ。ようのりのそのあり
寺舞樂より。蒲芭ゆど紙一巻のよりとせ。宮殿の
ちすとやでゆくりのうりとく。彼和をとよりて。
仏より打祭せ。和と漕出つ。矣殿紙るとく田の殿
とのふよいる。桃殿まるの殿るのどいふあるより。
修験高丸亀殿。股亀ちべて山ちる紙横殿の瀬戸



天清

ちはやぶる
神代も聞かず竜田川
からくれなゐに水くくるとは

續膝栗毛二編 上老後

五十音